



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1938, 18(205): 226-228

ISSUE DATE:

1938-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167656>

RIGHT:

観測部月報

東亞天文協會

流星・太陽

流星
(80)
課だより

五月上旬に活動する水瓶座流星群はハリ彗星に關聯するものとして知られてゐる流星群で、輻射點は水瓶座 γ 星附近にあるが、出現の全期間に亘つて東方に移動することが知られてゐる。南米の同胞勝浦氏の結果によれば、五月

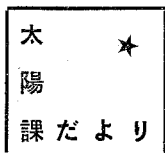
1日頃は $\alpha=332$, $\delta=-3$; 同14日頃は $\alpha=342$, $\delta=0$ となつてゐる。

本年は四月30日が新月に當つてゐるので、この流星群の観測は實に絶好である。夜明前僅かに一時間あまりしか（低緯度ではもつと多く、殊に南半球の観測者は2〜3時間も観測できるが）観測することが出来ないが、観測によつて日々の出現程度の増減や輻射點の位置を追跡することは重要なことである。観測時間は近畿方面では大體3時—4時を選べばよいが、關東ではもう少し早く、九州では若干後れて観測を開始したらよい。

昨年度の流星観測の集計は下の通りである。

月	観測者	回数	観測時間数(分)	観測流星数
一 月	4	7	815	135
二 月	3	9	1015	145
三 月	4	9	1045	93
四 月	5	11	1096	109
五 月	3	16	1735	213
六 月	4	10	870	65
七 月	4	14	1185	148
八 月	5	22	2115	633
九 月	4	7	361	55
十 月	5	24	1980	300
十一月	6	19	1535	311
十二月	5	17	900	317
總 計	12	165	14652	2524

以上の外微光流星の觀測が60個(觀測者2名)、流星の寫眞撮影數21個がある。上記の數字を一昨年度に比すれば觀測が少く残念である。今年は更に會員の奮起を希ひ多數の觀測を得たいと思つてゐる。(課長 小嶺孝二郎)



3月 は天氣が亂れ、遂に1日の無觀測日を生じた。

上旬は比較的平穩だつたが、やゝ大きなものが2群、10日頃に中央子午線を通過した。中旬はそれにひきかへて、小さいものではあつたが、太陽の全面にわたつて多數の黒

點群が現れ盛觀であつた。下旬は「南緯 15° 附近に出現した肉眼的の2つの大黒點が太陽面を我物顔に君臨した。新群の出現は10群に及びその全部が南半球だつたのは注目される。殊に25日には南緯 42° といふ珍しく高緯度に一小黒點が現れた。この群は白斑に包まれ、25日には3個、26日には2個より成つてゐた。北半球は實にさみしく只22日に1群認めたに過ぎなかつた。(本田實氏報)」

肉眼的なものは下旬に現れた上記の2群が最も著しく、そのほかに北半球の1群が12—13日に津留正村兩氏によつて認められた。津留氏はなほ14—15日(南半球西部)及び19—20日(南半球東部)に各1群を認められてゐる。

3月より水澤では菊池氏に代つて千葉氏が觀測を再開されることとなつた。

水谷氏の御住所は横濱市神奈川區七島町144の10である。

本誌の原稿締切が早められましたから御報告は至急にお送り下さい。(P)

オ

ロロに注意されし。 今後二三ケ年は太陽黒點の増大期であつ

て、地球上にも各種の異常な現象が現はれることと思ふから、一般社會人士の特別な注意を望む。殊に、磁氣嵐、電波異常、有線及び無線電氣通信機關の異變等は期待されるが、併し此等は多少専門家の取扱ふ事柄であるから、一般人士には比較的に閑却され易い。只、オロロ(北極光)のみは誰でも見えるものであるから、見落されないやうに望む。我が日本は諸外國に比べて緯度は低い方であるけれど、昔から京都に於いてさへ、「天に赤氣あり」といふ風なオロロの記録が數十回残されてゐるのだから、現代に於いても立派に見える筈である。但し、現代は都市の燈火や塵埃のため空氣が亂されてゐるので、田舎の暗夜でなければ觀望に困難であらう。見られたら、時日と場所等を至急御知らせ願ひたい。(山本一清)〔急報第286號より〕

太陽課 黑點相對數報告 (1938年3月)

觀測者 (觀測地)	田村	千葉	御供	森久保	水谷	堀田	淺居	大石	沓掛	正村	木邊	川上	三宅	改發	伊達英太郎	本田	津留	坂上
口徑 mm	58	50	50	70	58	38	58	55	102	25	75	76	50	150	36	50	32	102
倍率	64	50	45	50	50	50	60	64	75	48	60	56	88	68	40	59	50	40
1	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
2	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
3	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
4	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
(10)	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
21	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
22	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
23	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
31	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
日數	16	5	16	16	12	7	16	15	13	15	19	15	9	13	18	21	24	19
平均	78	—	84	84	64	—	93	75	90	61	89	99	—	118	95	103	45	73

●坂上氏1日は34耗53倍屈折機使用。●スケッチ受領：坂上氏5日分，本田氏21日分，正村氏1日分，堀田氏5日分。●寫眞受領：伊達氏2枚。●肉眼觀測：坂上氏2群，津留氏4群，正村氏3群，淺居氏2群，水谷氏2群。●緯度觀測：本田氏，沓掛氏。●御供氏20日以後休暇缺測。